

第6章 推進体制と進行管理

I 関係者の役割と推進体制

推進構想で掲げる「CNFでつながりひろがるものづくりのまちふじ」の実現にあたっては、「(仮称)富士市CNFプラットフォーム」を通して、市、国・県（公設研究機関）、大学等の教育機関、産業支援機関、事業者等がそれぞれの役割を担い、互いに連携しながら効果的に取組を推進していくことが重要です。

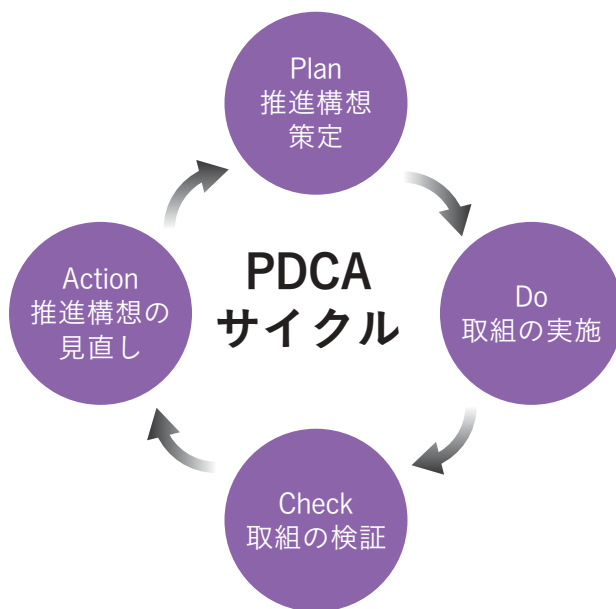
推進体制のイメージ



2 進行管理について

推進構想の着実な進行に向けて、Plan（計画）－Do（実行）－Check（検証）－Action（改善）のマネジメントサイクルにより、継続的な見直し・改善を行います。

PDCAの実施にあたっては、事業者の代表者や学識者、関係行政機関の職員から組織する「(仮称) 富士市CNF関連産業推進懇話会」を設置し、PDCAサイクルから見た解決すべき課題を明確にし、取組の優先順位付けや改善を図っていきます。



3 成果指標について

各方針に基づき展開する施策の成果指標を下記の通り設定します。PDCAは成果指標に基づく評価結果や最新の研究・開発動向等をもとに行います。

| 方針 | | 指標 | 基準値 | 中間値 2024年 | 目標値 2030年 |
|----|----------------------|-------------------------|------------------|--------------|--------------|
| 1 | CNFの理解促進 | 市が主催するセミナーや研修事業への参加延べ人数 | 70人 (2017年度) | 600人 | 1,200人 |
| 2 | CNFの活用促進 | CNF関連補助金の活用件数 | 0件 (2017年度) | 5件 | 10件 |
| 3 | CNF・地域産業の拠点とネットワーク形成 | プラットフォームへの参加団体数 | — | 40団体 | 80団体 |
| 4 | CNFの事業化推進 | CNFを活用し、製品化した市内事業所数 | 1社 (2017年度) | 10社 | 20社 |
| 5 | CNFのまちブランド育成 | 活気がある工業都市だと思う市民の割合 | 35.0% (2014年) | 50.0% | 65.0% |